

書 評

東京農工大学 工学部応用化学科 教授

亀山 秀雄

「水素エネルギー入門—
水素エネルギーの経済と技術がわかる—」

本書は、ボックリス博士の水素エネルギーに関する著書の最新作であり、国際水素エネルギー協会会長のヴェジログルとプロトン・エネルギーシステム社バーバー博士の3名の共著である。

内容は3部から構成されている。第一部では、「水素運動の四半世紀」と題して、水素エネルギーに関する国際的な活動の歴史を紹介している。第二部は、「水素経済という用語の誕生と環境崩壊をくい止める解決策としての水素経済」と題して、水素経済に関する今までの様々な議論が紹介されている。第三部は、「水素エネルギー・テクノロジー」と題して、水素の生産、貯蔵、利用、安全、規格、水素エネルギーシステムに関する最新の技術の紹介が平易に記載されている。

内容からすると、技術者向けというよりか文系の方や理系の大学生で水素エネルギー社会に関心のある方に最適な書である。記載は、入門者用に歴史的な流れと技術やシステムの概念の紹介が中心であり、水素エネルギー社会とはどのような社会かを理解するためには最適な本である

井東廉介 監訳

ジョン・O'M.ボックリス/T.ジャネット・ヴェジログル/フラノ・バーバー 著

西田書店

2003年6月20日発行

定価 1600円

ISBN4-88866-375-0

図解 水素エネルギー最前線

このところ、水素エネルギーに関する書籍並びに特集を扱った雑誌が多く出版されている。これは、水素エネルギー技術が、21世紀のキーテクノロジーとして大きな期待をもたれているためである。その中で、本書は水素エネルギーに関する近年の動向と将来の方向を最も正確に捉えている。

次の8章から構成されている。1章・水素と水素エネルギー、2章・燃料電池の基礎理論、3章・さまざまな燃料電池システム、4章・水素内燃機関、5章・水素製造、6章・水素の精製、7章・水素の貯蔵と輸送、8章・水素エネルギーの普及に向けた動きと課題。

執筆者は、それぞれの分野を最も良く把握している方が、原理と最新技術の内容をイラストや写真を使ってわかりやすく解説している。技術の性能比較もきれいな表に簡潔にまとめられており、読者が理解するためだけでなく、人に説明する際にきわめて役に立つ図表が満載されている。特に8章は、日本を初め各国の水素エネルギー戦略と実際の国家プロジェクトが紹介されており、これからの水素エネルギーシステムの行方を知る上で役に立つ情報がまとめられている。

本書は、水素エネルギー関係者の必読の書といえる。

文部科学省科学技術政策研究所、科学技術動向研究センター 編著

工業調査会

2003年7月刊

定価 2400円

ISBN4-7693-7118-7